

仙北市病院事業経営健全化計画に関する第 1 回住民説明会の開催結果について

1 概要

令和 8 年 3 月に策定しました「仙北市病院事業経営健全化計画」の概要を説明し、かつ住民の皆様よりご意見・ご質問を伺うため、市内 5 か所において計 7 回住民説明会を開催しました。

2 実施日、参加人数等

日時	会場	参加人数
6 月 2 2 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00	田沢湖総合開発センター 1 階 大集会室	2 4 人
6 月 2 7 日 (土) 10 : 00 ~ 10 : 45	角館交流センター 第 1 研修室	8 人
6 月 3 0 日 (火) 18 : 30 ~ 19 : 30	桧木内地区公民館 2 階 大会議室	5 人
7 月 2 日 (木) 18 : 30 ~ 19 : 30	西木総合開発センター 2 階 集会室	2 人
7 月 9 日 (木) 18 : 30 ~ 19 : 30	角館交流センター 第 1 研修室	4 人
7 月 1 1 日 (土) 10 : 00 ~ 11 : 50	田沢湖総合開発センター 1 階 大集会室	2 5 人
7 月 1 4 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 15	就業改善センター 2 階 集会室	1 4 人
合 計 (延べ人数)		8 2 人

※時間は開始から終了まで

3 皆様からのご意見・ご質問とそれに対する回答・見解（要旨）

○ 経営健全化計画の進め方、将来ビジョンについて		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
1	今後この経営健全化計画を <u>どのような流れで進めていくのか</u> 教えてほしい。	次の3点を中心として進めてまいります。 <u>一つは病院の再編統合</u>です。入院機能を集約化し、仙北市内で二つの病院が競合するということを防ぐ必要があると考えております。 <u>二つ目は角館総合病院の経営改善</u>です。収益増とコスト削減の両輪で取り組むことが必要ですが、収益面では患者増に向けて近隣の医療・介護施設や大曲厚生医療センターとの連携強化しつつ、診療報酬制度上加算できるものについては積極的に取得していき診療単価増に努めます。 コスト面ではニーズに合わない外来診療科の休止や人員の適正配置を実施するなどスリム化を図ります。 <u>三つ目は、病院事業債の活用</u>です。多額の一時借入金を短期的に全額解消することは困難ですので、これを長期借入に切り替えることで早期の資金不足比率改善を目指します。
2	再編統合後の患者数をどのようにシミュレーションしているか。それを踏まえて <u>どのようなビジョンを描いている</u> か。	人口減少に伴い、秋田県全体の医療需要は入院も外来も2020年（令和2年）をピークに減少し続ける見込みです。ただし、高齢者の割合はますます大きくなり、2030年（令和12年）以降は85歳以上人口の割合がさらに増えていきます。これを踏まえて国や県でも<u>医療・介護の連携を重視した構想</u>の検討を進めているところです。 また、症例としても誤嚥性肺炎や尿路感染症といった高齢者特有のものが増えていくことが予想されるため、仙北市でも<u>高齢者救急への機能転換・強化</u>が必要となるものと考えています。また<u>医療圏全体での役割分担</u>を意識しながら、急性期拠点病院との連携も深め、「<u>治し支える</u>」医療体制への特化を目指します。

○ 財政・経営状況の現状及びこれまでの経緯について

No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
3	両病院の一時借入金残高を令和7年度仙北市人口で割ると、市民一人当たり9万円以上の負債ということで、これは全市民が共有すべき大変な危機的状況であると実感する。 そのため、提示されている経営健全化計画を早急に進めていくほかには無いと思うが、一方で、このような状態を改善できなかった経緯を踏まえれば、これから<u>本当に改革できるのか</u>という懸念もある。その覚悟を示してほしい。	ご指摘のとおり市全体に影響を及ぼしかねない危機的状況です。病院事業の一時借入金残高は令和7年度末で約22億円となっておりますが、このままいけば病院全体の医業収益を上回るペースで増え続けていき、最終的には金融機関からの融資停止、すなわち事業ストップとなる危険性があります。その場合、両病院の約100億円の負債を市で負担しなければならない事態となってしまいます。 こうなった要因としては、両病院とも体力以上の建物を建てたことによるコスト増や、新病院開院後に一部常勤医師の退職等により収益悪化した、といったこと等が挙げられます。 これまでも全国自治体病院協議会からのアドバイザー派遣や、コンサルタントの導入等対策を講じてきてはいますが、抜本的な改善には至っておりません。また、市の方でも病院経営に対し多額の繰出金を投入してきたところですが、財政状況も年々厳しさを増しており、これ以上の支援は困難です。 この中で、<u>本質的な部分へ踏み込んだ改革</u>をしていかなければなりません。この<u>仙北市に病院を一つでも残して地域医療を守るためには、やはり病院の再編統合は避けて通れないもの</u>と考えています。 ただ、再編統合してすべて解決というわけではなく、<u>角館総合病院の経営改善</u>も同時に進めていかないと、早期の健全化は不可能です。高い比率となっている人件費の縮減や外来診療科のうち不採算部門を整理する等着手が必要です。また、収益確保に向けて集患対策等を強化していきますが、何よりも病院スタッフの意識改革を重要視し取り組んでまいります。 病院事業における約8億円の赤字を改善していくのは、大変困難な課題であることは間違いありません。しかしながら、<u>これを実現できなければ、両病院が共倒れしてしまう可能性が極めて高くなります</u>。この仙北市から病院が無くなるという事態を防ぎ、地域医療を守るためにも、不退転の決意で改革を推進していきたいと考えております。

No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
4	令和５年度から令和６年度にかけて<u>急激に収支が悪化</u>しているが、この<u>要因</u>は何か。	大きな要因として<u>人件費の増大</u>があります。市職員の場合、県の人事委員会勧告で示された給与水準を尊重し改定実施することが通例となっていますが、令和６年度以降、水準が大きく引き上げられています。またいわゆる会計年度任用職員についても国の制度改正があり、同じく令和６年度から勤勉手当の支給が開始されております。 その他には、<u>物価高騰</u>の影響により、診療材料費の価格が上昇してきているという面もあります。 また、<u>一般会計からの補助金額について見直し</u>を行ったという側面もあります。実際はこれまでも病院事業の資金不足比率が基準オーバーとならないよう市でも繰出金を増額して対応してきており、令和５年度には１３億５千万円という金額まで膨れ上がってきていました。ただこのような対応が慢性化していくと、市の財政状況もますます悪化していくため、令和６年度に繰出金を１１億円に固定したという経緯があります。
5	市の一般会計で実施している全事業の中で病院事業に対する補助金が最も金額的に大きいという認識で良いか。 また、病院の体制を現状維持する前提で資金不足の拡大を防ぐには、市からの支援が毎年２０億円必要と試算されているが、このうち地方交付税はいくらぐらい措置されるか。	お見込みのとおり、病院事業への繰出金が金額として最も大きくなっています。令和８年度では１４億８千万円を繰り出す予定です。 地方交付税による措置額は、繰出金の総額に関わらず毎年８億円程度で、これが現体制では上限いっぱい金額となります。 差し引き後の残額はすべて一般財源で賄う必要がありますので、繰出金の総額が増えれば増えるほど、市の負担が大きくなっていくこととなります。
6	夕張市の事例を調べると、市民負担の増大や行政サービスの低下など、本当に厳しいことが実施されたようである。こういった事態になることだけは何とか避けてほしい。	この病院事業の経営改革については、市政において最大の課題であると位置づけております。仙北市が長く存続していくためにも、健全化を達成しなければなりません。 もちろん、病院だけでなく市財政の改善も重要であり、毎年事務事業の見直しを行うなど歳出削減に努めております。 次の世代に大きな負担を残さず、子や孫の世代までこの仙北市をふるさととして暮らしていけるよう、全力で取り組んでいくことをお約束します。

○ 健全化に向けた取り組みに伴う懸念について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
7	経営改善のために医療体制を縮小していくということはわかるが、それによって頼りがいの無い病院になってしまうのではという不安がある。	今回の経営健全化計画の実施により経営の安定化の目途がつき、生産性向上のための設備投資へ資金を回せることができるようになれば、患者様にとってもより良い環境をつくっていけるものと考えております。
8	田沢湖地域には開業医も少なく、現在田沢湖病院にある皮膚科や耳鼻科といったものが無くなるのは困る。高齢になれば遠くの病院に行くのも大変だ。	仙北市は大変厳しい状況にあり、その要因の一つにこの病院の問題があります。人口が合併時より約1万人減少している一方、病院は合併当時とほぼ同規模で存続しています。これまで先送りにされてきた厳しい問題にも逃げずに対処しなければならないということで、病院の再編が必要であると考えております。 ただし、<u>交通弱者の方向けに統合病院までの連絡バスの運行</u>や、オンライン診療による専門医療へのアクセス確保について、検討してまいります。
9	田沢湖病院の障がい者施設等一般病棟という施設を無くすのはもったいないと感じる。せめて角館に移設する等はないのか。	障がい者病棟については、本来は人工呼吸器の装着が常時必要となる等重度の障がい者を想定した制度設計がされています。 <u>現状の田沢湖病院の患者層では重度障がい者は極めて少なく</u>、看護必要度の低い患者様がほとんどです。そのため、診療単価も相対的に低くなっております。 さらに近年になって国の制度変更もあり、当該病棟へ入院できる患者要件が厳しくなっているということもあります。最近では横手市の大森病院でも障がい者病棟から機能変更を行った事例もあります。 これらのことから、現時点では障がい者病棟を角館にそのまま移設させるということは考えておりません。

○ 医療提供体制、医師確保対策等について

No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
10	病院の共倒れを防ぐための医療体制の再編ということで、より説得力のあるものとするならば、<u>救急医療を第一</u>として、やむを得ない場合を除き角館総合病院で必ず救急患者を受けるということにし、また田沢湖診療所でも日中は救急を受ける体制であることが望ましいと思う。	救急については、<u>軽症及び中等症の患者については絶対に断らないという方針</u>で進めていくことを病院内でも確認しております。万が一お断り事例があった場合は、救急隊から連絡いただき直ちに対応することとします。 また田沢湖病院が診療所化された場合においても日中に限り一次救急を受ける体制確保ができるよう努めてまいります。
11	常勤の医師を増やしていくということも収益を上げていくには必要なことだと思う。<u>良い医師を確保</u>できるよう、取組を強化してほしい。	医師確保の問題については県全体でどれだけの専門医がいるのかという面も考慮する必要があります。現行の制度上、秋田県に残る医師の数は年々減少しています。そのため、すぐに確保できるわけではないというのが実情です。 ただし、何もしないというわけではなく、<u>秋田大学との連携を強化するなど今後も様々な対策を講じてまいります。</u>
12	予約を取っているにもかかわらず、<u>診察までの時間が長すぎる</u>。また、待合スペースも非常に混雑し座るところもないことがよくある。何とかならないのか。これでは患者は増えていかない。	待ち時間については、医師や診療科によって違うということもあれば、採血や様々検査が必要になる場合もあります。その結果が出ないとどうしても次に移れないということもあり、一概に同じようにするというのは非常に難しいところがあります。<u>業務フローを確認しながら、要改善箇所があればその都度変更するなど効率化を図ってまいります。</u> 待合室の混雑についても、例えば診察待ちの方と会計待ちの方とが混在しているということもあるかと思います。これについては、会計処理方式を各ブロックでの作業から支払窓口へ一本化する等、対策を講じる予定です。 外来の状況について、日々見回りを行いながら問題点の洗い出しと改善に努めてまいりますので、ご理解願います。

No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
13	例えば、田沢湖病院の入院機能を現行のものから転換させるなどして継続していくことはできないのか。	田沢湖病院については入院病床の一部を地域包括ケア病床に転換するという仮定の下、収支シミュレーションを行いました。 その要因としては、地域包括ケア病床でやるにしても、角館総合病院との間に競合が生じてしまい、収益が分散するということにあるためです。
14	田沢湖病院が診療所化したあと、空きとなる2階の病棟スペースについて、現時点で何か利活用することは検討しているか。	田沢湖病院の入院機能休止後の病棟スペース活用については課題としているところですが、現段階ではこれから検討を進めていくこととしております。
○ 職員の接遇対応、意識改革について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
15	以前体調が悪くなって角館総合病院を受診しようとしたとき、診察時間がわずかに過ぎてしまっただけで時間外だからと断られた。他にも高齢者の方がそのような対応を受けた事例を耳にしている。もう少し <u>患者に寄り添った対応</u> はできないのか。	病院スタッフの対応に関するご批判は多くいただいております。このことについては病院内でも共有し、並行して行っている職員説明会でも直接職員に伝えております。 これまで同様の事例があったときも、現場のみで完結してしまい、上まで報告されていなかったということもあるかと思います。事例の共有を徹底していくとともに、<u>研修等も実施しながら、接遇改善に努めてまいります。</u>
16	どんなに良い計画を立てたとしても、それを実行していく <u>職員の意識</u> が変わらなければいけないということを踏まえ、取り組んでほしい。	ご指摘のとおり職員の意識改革が肝心です。この現状に危機感をもって、「 <u>これまでとは違う</u> 」という <u>意識を醸成</u> し、取り組んでいるところです。